

総務委員会 県内調査活動状況

1 日 時 平成21年11月15日(木)

2 出席委員(7名)

委員長 保延 実

副委員長 白壁 賢一

委員 高野 剛 棚本 邦由 山下 政樹 望月 勝 竹越 久高
仁ノ平尚子

欠 席 土屋 直

地元議員 岡 伸 議員 安本 美紀 議員(甲府市)

大沢 軍治 議員 木村富貴子 議員(甲斐市)

3 調査先及び調査内容

(1) 【山梨県燃料電池ナノ材料研究センター】

○調査内容(主な質疑)

問)九州大学における燃料電池研究と山梨大学における燃料電池研究の違いは何か。

答)九州大学の研究のベースは、機械系である。要するに水素を貯蔵するための材料の研究が主であり、燃料電池本体の研究ではない。

水素を高圧で貯めた時に、水素が金属と反応して最終的に壊れやすくなるが、それをどうしたらよいかというような研究を主に行っている。

一方、山梨大学は燃料電池本体、触媒であるとか、その他の材料であるとか、その構造であるとか、電気を起こす部分、燃料電池の心臓部の研究を行っている。九州大学はある意味インフラに係る研究を主に行っている。

問)九州大学の燃料電池研究センターに県外調査に行った際、その規模の大きさに驚いた。

答)九州大学にある燃料電池センターの規模については、山梨大学の規模とあまり変わらない。その他の大学施設が多くあるため、規模が大きいと感じたのではないかと。

ただ、燃料電池に関しては、福岡県が非常に力を入れており、例えば補助金を出して集合住宅にまとめて燃料電池を導入するといった支援を行っていたり、水素パイプラインを設置するなど社会環境の整備にも取り組んでおり、PRの仕方が上手だなと思っている。我々も、今後PR活動にも取り組んでいかなければならないと考えている。



※山梨県燃料電池ナノ材料研究センターにおいて、燃料電池についての概要説明、質疑の後、施設内の視察を行った。

(2) 【意見交換会】

① 出席者

- ・甲斐市内 各ボランティア団体代表者
- ・韮崎警察署

② 内容

ア 概況説明

「各ボランティア団体の活動について」

イ 意見交換

「安全・安心なまちづくりについて」

主な意見

問) ながつかパトロール隊の方にお聞きするが、長塚地区は規模が大きいため、ボランティアであっても活動経費がかかると思うが、年間どれくらい経費がかかるのか。

答) 1回につきガソリン代として350円支給している。3カ月毎に支給しているが、多い人で7000円、少ない人1700円である。トータルすると年間で12～15万円くらいである。

その他にも、青色パトロール用のベストや帽子などの購入経費を自治会から出してもらっているが、とても予算の範囲内では足りず、出動頂いている人の負担が伴っている。これも、ボランティア精神ということでやっている。

問) ライオンズクラブの方にお聞きするが、私の地元にもライオンズクラブがあるが、安心・安全なまちづくりに係る活動を行っていると聞いたことがない。県内では、双葉ライオンズクラブだけがこういった活動を行っているのか。

答) 神奈川県と山梨県がライオンズクラブの一つの単位としているが、その中で、統一奉仕デーという日を設けており、一斉に奉仕活動を行うが、安全パトロールを実施しているのは、双葉ライオンズクラブだけでないかと思っている。

問) F C P Pの方にお聞きするが、ながつかパトロール隊については自治会が中心となって活動しているのに対し、F C P Pの活動については、完全に勝手連なんだと思うのですが、メンバーの方はほとんど地域の方なのか。それとも、町外の方もメンバーにいるのか。

答) メンバーは町内の方である。

問) 車によるパトロール活動であれば、経費がかかると思うが、その点についてはどうか。

答) 会が発足した当初から、経費の問題、活動の際の事故等、活動することでのリスクについての議論があった。多少のリスクがあることはメンバーも皆承知しており、中には途中でやめていく者もいたが、現在まで続いている人は、報酬はなしで活動している。

問) 会費等も徴収していないのか。

答) 徴収していない。

問) いくつもの団体がパトロールや小学校児童の見守り等、共通した活動を行っているが、

各団体同士の横の繋がりがあり団体間の調整などを行っているのか。それとも、それぞれの団体が決められた地域の範囲内で独自に活動を行っているのか。

答) 長塚の場合は、地区内に1300戸あるため、独自に活動している。自治会の会合等で自治会長等から住民に対し、パトロール隊の活動にできるだけ協力して欲しい旨の願いをし、またパトロール隊では広報を作成し、その広報にパトロール隊の組織図や、こども110番の家を記した地図等を掲載するなど啓発活動を実施しているため、多くの住民にパトロール隊の活動内容が浸透してきていると感じている。

また、安全・安心なまちづくりの活動をさらに広めていくためにも、他の団体との繋がりも必要だと感じている。

答) 各団体が独自に活動しているわけであるが、平成20年10月14日に「甲斐市・韮崎市安心安全まちづくり連絡協議会」を設立し、関係団体の代表者に参加して頂いている。今後はこの協議会の活性化を図り、情報の共有化や活動の平準化など相互の理解を一層深めていきたいと考えている。

答) FCPPはある事件をきっかけとして設立された組織であるが、発足当初から、本来であれば我々が活動しなくても良いような、安心できる環境にしたいという思いで、活動していた。下校時でも山に登ったり、自由に帰宅できた昔のような安全な環境をつくるのが一番良いのではないかと、まず念頭におき活動を始めた。

よって、県議会議員の皆様には、子供達の将来のためにも、犯罪が抑止できるような環境づくりをお願いしたい。昔のような強い警察力、教育力を発揮できるようにしていただきたい。

我々としては活動内容を大きくしようと言う考えはなく、むしろ我々の活動が必要ないような、安全で安心な環境が実現できることを望んでいる。

問) 皆様の安全を含めて、ちょっと心配になる面があった。もちろん皆様の活動が抑止力として働いているわけだが、もしも活動中何かあった場合の対応について、何か協議されているか。

答) 双葉地区警察官駐在所ふれあい会では、小学生下校時のパトロールについて、年会費を徴収し会を運営しているが、運営費の中からパトロールに参加する人全員に、傷害保険を掛けている。

問) 何かあった場合、このように行動しようという申し合わせはあるのか。

答) ながつかパトロール隊の場合は県から許可をもらって活動しており、その許可を更新する際、韮崎警察署の担当者から講義を受けているが、その講義の中で、必ず2人1組でパトロールするように、また何か事件事故等が起きた場合には、例えば車のナンバーを控えておくとか、どういった服装であったなどの確認は必要であるが、その際には遠目から確認するだけで、絶対に現場に近寄ってはいけないとの指導を受けている。

答) 警戒中に不審者を発見した場合には、緊急性のあるものについては、警察署か駐在所に連絡すれば、直ちに現場へ出向き職務質問等を行うことにしている。また、緊急性のないものについては市役所や教育委員会、学校の方へ連絡して対応していただくことにしている。ボランティア団体自体には、防犯パトロール、或いは制服を着ることで犯罪の抑止力を与えるという効果を狙っている。警察官のような職務質問等を行う権限はないため、高度な活動は求めている。

答) 老人クラブの会には、市で交通災害保険に加入している。ただ、他の活動については何の保障もない。ただ、安全に気を付けて頂くなかで参加して頂いている。

答) 長塚は大所帯の自治会であるため、自治会内を車でゆっくり1周巡回すると、だいたい50分～1時間程度かかる。当初ボランティアでこのパトロール隊を結成する前には、老人会、愛育会、PTA、育成会等の団体が活動していた。しかし、重複して役員を努める人が多くいたこと、また、1つの団体に係るウェイトがかなり重いということで、自治会長中心に積極的に動いてくれ、ながつかパトロール隊が結成できた。このように自治会が積極的に関与してくれることが非常に重要なことであると思う。

ボランティア活動の負担を軽減するため、それぞれの団体に負担を分け合う必要があり、そのために自治会が積極的に関与してくれた方が効率的である。

問) 折角の機会であるので、現在、県、県警察本部、県教育委員会に対して、皆様方からの要望等が具体的にあれば、お聞かせ願いたい。

答) 今後の方針として、委員がご指摘されたように、各ボランティア団体の横の関係を強化することで、それぞれの活動が活発になるのではないかと考えている。また、参加者の身分保障も重要になってくると考えている。良いアドバイスをいただき感謝する。

問) PTAなどとの連携、特に20代の若い人のボランティア活動への参加状況はどうか。

答) 中塚地区のパトロール活動はちょうど2年経過したことから、懇親をかねて総会を開催した。その中で、老人会の方から、「今の親は何をしているのか」、「今のPTAは何をしているのか」という意見があった。われわれの活動に対し、子供は挨拶するけれど、親は挨拶しないということがある。これは一部の親のことかもしれないが、その点は教育が必要なのかなと感じている。

答) パトロールについては、ご父兄の皆様もやっている。ただ、我々の活動と連携をあまりに強くすると、お互いの活動を干渉してしまうという問題もある。それぞれ独自の活動をするなかで、連携できる部分について、協力できればと考えている。



※蕪崎警察署甲斐分庁舎において、意見交換会を実施した。